

文化紹介 ◎黄中国語国際交流員による文化紹介です。

『中国の宅配便』

私はよくアマゾンで買い物をします。平日家にいないので、いつも時間を指定して配達してもらいます。そして、荷物はいつも指定した時間内に届きます。最初はとても不思議に思っていました。こんな時間通りに配達するのは大変ですからね。

最近、中国ではネットショッピングの影響で宅配便の利用が進んできました。でも、日本の宅配便とはちょっと違います。今日は中国の宅配便について紹介したいと思います。

中国では宅配便は自分の家まで配達されることは少ないので、多くの人は届け先を自分の職場にします。仕事中に受付まで荷物を受取りに行くのはごく当たり前のことです。届け先を自宅にした場合でも、自宅までは配達してもらえず、マンションであればマンションの一階入り口か守衛室まで取りに行くのが一般的です。宅配業者は、事前に荷物のラベルに記入した電話番号に電話して、「あと5分着きますから、〇〇までに受取りに来て下さい。」というような感じで配達しています。宅配業者がお金を出して作ったロッカーが住宅地域にたくさん設置されています。例えば、注文者が当日荷物の受取りができないとき、宅配業者は荷物を宅配ロッカーに預け、暗証番号などをメッセージで注文者に送ります。あとは注文者が都合のいい時、ロッカーまで荷物を取りに行けば受取れます。



大学生もネットショッピングの重要な顧客となっています。どの大学でも1日何十～何百もの荷物が届きます。



個々に配るのはとても大変ですので、配達業者が考えた方法は、校門か、校門近くの場所に荷物をばら撒き、学生がそこへ取りに来るよう電話で連絡します。今では多くの大学では“宅配便受取り室”が設置され、一旦そこで荷物を預かり、担当者が学生に連絡します。

農村部では村と村が離れている場合が多いので、各村まで配達するのは無理なことです。そこで多くの宅配業者は、農村間の中心となっているスーパーなどに荷物を預け、村の人たちがそこへ荷物を取りに行くようになっていきます。その預かり料として1回1～2元(1元は約17円)を取られますが、最近は預かり料を無料にするスーパーも増えてきました。荷物を受取りに行くとき、ついでに買い物する人が多いからです。